

風土記の丘の花だより¹¹¹

今、そしてこれから見られる植物(2021年11月20日)

涼しさを乗り越えて、寒くなってきました。冬がそこまできています。それもそのはず、もう11月の下旬なんですね。今回も4つ紹介します。



ハマヒサカキの花が咲きました。この木には雄株（左）と雌株（右）がありますが、どちらにも花が咲いています。谷山家住宅の山側には雌株、北側の通路沿いには雄株が植えられています。元々は海岸に多く、普通「びしゃこ」と呼ぶヒサカキより葉が厚く、つやもあり、潮風に耐えられるようにできています。



同じく谷村家住宅の庭では、アオキの実が真っ赤に色づいてきています。この木にも雄と雌があります。春に地味な目立たない花を咲かせますが、上のハマヒサカキと同じで、雄花と雌花とでは形が違います。また、咲いた時に観察してみてください。ちょっと前まではミズキ科でしたが、今ではガリア科だと言ってみたり、いや、アオキ科だと言ってみたり、資料によって書いてあることが違います。ややこしいですね。



ナナミノキにも赤い実がなっています。よく似た木にクロガネモチがありますが、それよりも葉も実も細長いです。また、葉の色も少し黄緑色っぽいのです。この木にも雄と雌があり、もちろん実ができるのは雌の木です。昔はナナメノキと言う人もおられ、私も若い頃は、そんなに教わりました。



クチナシの実が色づいてきました。これを「くちなし色」というのでしょうか。資料によると「少し赤味のある黄色」とあります。この実で染めた布の色だそうです。実が割れたり裂けたりしないので「口無し」だそうです。実ができると、甘い香りの真っ白な花の頃とは全く印象が変わる植物ですね。漢字では梔子とか支子とか書くようです。 松下